

2026 年度（令和 8 年度）愛知学泉大学 入試問題出題方針

科目名：総合型選抜 基礎学力方式 国語

1. 出題方針

・方針

読解問題を使って高校 1 年から 3 年 1 学期までの、基礎的学力を診断する。

平均点が 60 点となるようにする。（実際は「英語」と合わせるので、50 点の 6 割の 30 点）

記述式を含めた問題を作成する。

・出題範囲

現代の国語、現代国語、文学国語

上記範囲から出題をして、基礎的学力を診断する。

2. 出題形式（問題数、問題構成など）

文章題は 2 題出題し、その他文法、慣用句、漢字の問題を出題する。

割合としては以下の通りである。

評論・随想文 40%

小説 40%

文法・慣用句・漢字 20%

2026 年度（令和 8 年度）愛知学泉大学 入試問題出題方針

科目名：総合型選抜基礎学力方式 英語

1. 出題方針

方針

- ・記述式を含めた問題を作成する。
- ・「プレゼンテーション方式」での受験を望まない受験者向けに、基礎学力を測る問題を作成する。
- ・高校での学習の到達度を測定できるような内容とする。
- ・家政学部のアドミッションポリシーに基づく学力水準が測れるような内容とする。
- ・平均点が 60 点となるようにする。（実際は「国語」と合わせるので、50 点の 6 割の 30 点）
- ・時間が 30 分であることも考慮し、問題数を少なく（1 時間の時の半分かそれより少なめ）する。
- ・レベルは、この形式での「英語」問題の初回であることと、受験時期が 8 月～9 月であることから、一般選抜入試時よりもやさしい問題を作る。（今後、受験者の点数によって、適正な難易度に調整するためのデータとする。）
- ・どこかの学科の受験者が有利になるような内容は避ける。

出題範囲

「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」から出題する。
ただし、高校 3 年の途中のため、1 月の一般選抜入試の問題よりもやさしめとなるよう調整する。

2. 出題形式（問題数、問題構成など）

- ・出題形式（問題数、問題構成など）とねらい（傾向と対策）

全 17 問

- | | | |
|-----|---|-----|
| I | 150 字程度の英文を利用した記述式の文法問題 | 5 問 |
| | （ねらい）動詞活用の理解（文法理解）を測る。 | |
| II | 会話文 | 5 問 |
| | （ねらい）基本的な日常会話の理解や、英語による論理・表現の力を測る。 | |
| III | 文法・語彙・表現問題 | |
| | 短文の空いているカッコに適切な単語を選択する。（4 択） | 5 問 |
| | （ねらい）基本的な文法力と語彙力を問う。TOEIC の Part 5 に類似。 | |
| IV | 語順整序問題 | 2 問 |
| | （ねらい）与えられた日本文の意味に合うように英単語を並べかえる。英語の基本的な文章の構成を知っているかを問う。 | |